



産業界と若者の意見交換会に参加した31名の学生インタビュワー

産業界が支える核融合技術

産業界と若者の意見交換会
核融合分野に携わる産業界への
インタビュー集計結果発表

発行所
核融合エネルギー
フォーラム
広報サブクラスター
/
核融合炉実用化
若手検討会

2017年
3月1日
(水曜日)

核融合エネルギー フォーラム

(<http://www.fusion.qst.go.jp>)

([/fusion-energy-forum/index.html](http://fusion-energy-forum/index.html))

三十一名の学生によるインタビューを実施。企業の核融合分野における活躍とその現状とは。

二〇一六年二月二日に、イイノホールにて核融合エネルギーフォーラム主催によりイーター・ビーエー成果報告会二〇一六「人類の明日をのぞむ核融合エネルギー」が開催された。それにあわせ、フォーラム内の委員会組織である広報サブクラスターと核融合炉実用化若手検討会が合同で「産業界と若者の意見交換会」を実施した。大学院生三一名、学部生二名の合計三三名の学生が参加し、成果報告会に併せて実施された核融合技術関連企業によるパネル展示において、企業と核融合開発の関係に関する複数の項目についてアンケートインタビューを行った。アンケートの内容は、企業が核融合開発に取り組み上で開発した最先端技術や、その技術の社会への波



学生によるインタビュー風景

及例などについてである。また、核融合分野のやりがいや、どういった部下が欲しいかなど、学生にとって企業研究に繋がると思われる項目もある。超電導コイル製作に携わるメーカーへのインタビューでは、「核融合炉は将来のエネルギー源としてロマンがある。中性子に強い材料開発など困難な課題は多いが、元気・やる気のある若手と一〇年単位の長いスケールのビジネスとして考えていきたい。」また、大型構造物製作に携わるメーカーへのインタビューでは、「原型炉で終わりではなく、商業炉ができるまで技術を継承しつづける必要がある。企業としてチャレンジを続けたい。」企業へのアンケートインタビューを終えて参加学生の九四％が「核融合関連の企業への就職に対して興味が増した。」と回答した。また、「日本の企業が

有する高い技術力をより更に高めたい。今回聞いたような内容を知らするための機会をもっと増やして欲しい」という希望が多かった。現状では、企業と核融合炉開発における密接な関係について学生が学ぶ機会が十分設けられていないと言いつらいが、今回のような活動を通じて機会を提供し続けたいと思う。今回意見交換会に御協力頂いた以下の会社に御礼申し上げます。(順不同) (株)日立パワーデバイス、(株)EBC検査計測、東芝電子管デバイス(株)、(株)化研、オリンパスメディカルサイエンス販売(株)、(株)アルゴグラフィックス、極東貿易(株)、日本インターグラフ(株)、金属技研(株)、(株)テクノエーピー、(株)トヤマ、京セラ(株)、(株)東芝 エネルギーシステム・ソリューション社、三菱電機(株)、ジャパンスーパーコンピュータテクノロジ(株)、(株)有沢製作所、三菱重工業(株)、(株)日立製作所、ゼネラルエンジニアリング(株)、新日鉄住金エンジニアリング(株) (文責：東工大 近藤正聡)